



2025

1

No.452

「広報」 たかなべ

KOHO TAKANABE

新年のご挨拶

二十歳の皆さんおめでとうございます



高鍋町二十歳の集い

発行：高鍋町

迎春 新年のごあいさつ



高鍋町長 黒木 敏之

新年、あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、日頃より町政運営に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は、円安、物価高騰、消費低迷、人口減少、少子高齢化等の課題が顕著になり、世界では、ロシアのウクライナ侵攻、中東情勢の混乱、資源価格の高騰、インフレ圧力など、不透明

リスク要因が山積し、新たな時代への転換点であったと考えます。

昨年の高鍋町の主な出来事として、危機管理課を設置し南海トラフ地震等自然災害への対応を強化しました。教育関係では、中学生の給食費の無償化、高鍋歴史文庫の出版、「柿原政一郎記念高鍋図書館の再生」と高鍋町歴史総合資料館を「二ノ丸文教歴史館」としてリニューアルオープンすることができ、先人を活かしたまちづくりに取り組む自治体連携の「嚶鳴協議会」と共に石井十次をテーマに嚶鳴フォーラムを開催し、5年間途絶えていた児童劇「石井十次ものがたり」を復活させました。産業振興では、農業支援、商工業振興を推し進め、「餃子のまち高鍋」の推進、高鍋・木城有機農業推進協議会による有機農業の推進、地域おこし協力隊と地域活性化企業人制度を活用した「株式会社デジタルラボたかなべ」によるデジタル化の推進、竹鳩橋架け替え推進等、住民サービスの充実と共に多くの積極的な「まちづくり」に取り組みました。

本年は、「産業振興」「教育」「福祉、子育て支援」「環境整備」を基本に、内閣府が推進する「SDGs 未来都市」の認証取得を目指し、SDGsの達成に向けた取り組みを積極的に実践していくこととなります。

そして本年、最も重要な取り組み、それは竹鳩橋架け替えに向けての取り組みです。いよいよ防衛省との話し合いが始まりました。本年は、実質85%の補助事業「レスキュー道路」計画を防衛省に要望し、令和8年度からの事業実施を目指すこととなります。総工費48億円（うち町費8億円）という、全国でも例を見ない、全国が注目する、小さな町が一級河川に2車線の橋を建設する大事業です。高鍋町の長年の課題であり、実現すれば高鍋町に大きな効果をもたらすこととなります。議員の皆様方と共に町民の皆様方のご理解を得ながら力強く推進していくこととなります。

本年も「農畜産業が豊かになってこそ商工業は潤いまちは元気になる」という「まちづくりの基本理念」の基、やるべきことを迅速確実に実践し、揺るぎないまちづくりビジョンである「豊かで美しい歴史と文教の城下町の再生」の達成に向かって歩を進めてまいります。町民の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



高鍋町議会 議長 古川 誠

新年、明けましておめでとうございます。令和7年の年頭にあたり、高鍋町議会を代表しまして謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、新たな抱負を胸に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より町議会に対し、温かいご理解とご協力を賜り、議員一同心より御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月1日石川県能登半島を震源とする震度7の地震から始まり、翌2日には航空機事故、その後、9月石川県では記録的な大雨となり、仮設住宅が被災するというテレビからの光景には言葉を失いました。

宮城県におきましても、8月に日向灘を震源とする最大震度6弱の地震が発生し、高鍋町でも過去にない強い揺れを経験しました。10月に県内各地で発生しました竜巻被害もいまだ爪痕を残していますが、近年100年に一度と言われるような災害が全国各地で毎年のように起きています。これからは、このような災害への備えを強化していくことが自治体の一番の課題だと考えています。

また、明るいニュースとしましては、パリ五輪で日本は、海外で開催されたオリンピックでは過去最多のメダルを獲得しましたが、本町出身でスケートボード女子パークイギリス代表のスカイ・ブラウン選手の銅メダルには胸が躍りましたし、アメリカメジャーリーグでは、大谷選手のメジャー初の50本塁打、50盗塁、いわゆる「50-50」という偉業を目の当たりにし、スポーツからたくさんの勇気と感動を貰った1年でした。

さて、高鍋町議会は2年前の選挙により新人議員6人が加わり新たな体制になりました。教育・福祉・防災・農業など、それぞれの得意分野を活かし積極的に町の課題解決に取り組んでいます。今後もこの2年間で学んだ知識・経験を活かしさらに飛躍してくれるものと信じています。

自治体運営において、町長をはじめ執行部には、予算を提案する権利と決まった予算を執行する権利があります。一方で、議員には基本予算の提案権はありませんが、予算を審査してその予算が良いか良くないかを定める議決権があります。これからも高鍋町議会議員一同、この役割の違いをしっかりと認識して職務にあたりたいと考えています。町民の皆さまもぜひ身近な議員に自分の意見を託してみてください。

いま、国では、裏金問題など政治不信が続いていますが、高鍋町議会におきましては、未来を考えた町政の課題解決に議会としての役割を最大限発揮できますよう使命感と責任をもって取り組んでまいります。

今後とも町民の皆さまの温かいご支援とご指導をお願い申し上げますとともに、本年が穏やかな良い年になりますよう、皆さまのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。





祝

令和7年 高鍋町二十歳の集い

晴天に恵まれた1月5日、たかしんホールで「高鍋町二十歳の集い」が開催されました。晴れ着に身を包んだ143人が出席し、20歳の門出を祝いました。

ホールの入口では、旧友との再会や近況報告、記念撮影を楽しむ若者たちの笑顔であふれ、会場は温かな雰囲気になっていました。

式典では来賓からの祝辞に続いて、参加者代表の岩切温慈さんが「私たちはこれから社会の一員として責任ある行動をとる必要があります。20歳という大きな節目を迎え、これからの人生をしっかりと歩いていく決意を新たにしています」と抱負を述べ、これまで支えてくれた家族への感謝の言葉を届けました。

新たな一歩を踏み出した皆さんが、それぞれの道で輝かしい未来を築かれることを心よりお祈りしています。



高鍋町歴史シンポジウム・嚶鳴フォーラム in 高鍋 2024・第32回石井十次顕彰のつどい

児童福祉の父 石井十次を知り、まちの未来へと繋げる

11月16日、たかしんホールにて、「高鍋町歴史シンポジウム・嚶鳴フォーラム in 高鍋 2024・第32回石井十次顕彰のつどい」が開催されました。

福祉という言葉すらなかった時代に、日本で最初の孤児院を創設し、一生を孤児救済に捧げた石井十次。今回のシンポジウムでは、パネルディスカッションや児童劇を通じて、石井十次の偉業と、高鍋町が持つ歴史や文化が紹介されました。また、「誰も取り残さない未来のために、今の私たちに何ができるのか」を考える貴重な機会となりました。



オープニングアトラクション「明倫堂の教え」唱和

高鍋藩第7代藩主・秋月種茂が創設した、藩校・明倫堂の教育理念「明倫堂学規」等を基にした14項目の教え「明倫堂の教え」を実践している高鍋東・西中学校の生徒28人が堂々と唱和しました。



児童劇「石井十次ものがたり」

出演：劇団「Juuziの奇妙な冒険」
(高鍋西小学校6年生)

演出：日高啓介さん

演出アシスタント：大江泰子さん
林田古都里さん

ピアノ演奏：今村さつきさん

高鍋西小学校6年生による児童劇。俳優の日高啓介さん演出の台本で、石井十次の幼少期から岡山県の診療所で最初の孤児を引き取ることとなった場面までが演じられました。

児童は約2か月半の間、プロによる本格的な演劇指導を受けて練習を重ねてきており、観客を前にしながら見事に演じ、最後は自分たちで作詞した「高鍋のうた」を歌い上げました。

高鍋のうた

作詞：高鍋西小学校6年1組・2組のみんな
作曲：今村さつき

ブーブーブー 車を通る わんわんわん 犬の散歩
トコトコ歩く 高鍋の町 今日町はにぎやかだ

キンコンカン チャイムが鳴る ミーンミン 夏のセミ
がやがやがやがや みんな元気 ほくらはここで生きている

十次先生の友愛の心 みんなでつなぐ愛と希望
縄の帯をキュウツとして みんなの笑顔願っている

カーカーカー 舞鶴公園 ザーザーザー 小丸川
ハハハハ 涙はやがて笑顔に
未来へつづく道を歩く



- ・パネリスト (左から) 河合敦さん(歴史作家、多摩大学客員教授、早稲田大学非常勤講師)、吉田公平さん(東洋大学名誉教授、嚶鳴協議会顧問)、黒木敏之(高鍋町長)
- ・コーディネーター (右) 寺田昭一さん(月刊誌「歴史街道」(PHP 研究所)特別編集委員)



特別講演「孤児救済に生涯を捧げた 高鍋の石井十次」

歴史作家の河合敦さんによる特別講演では、石井十次の事績が紹介されました。講演では、石井十次の幼少期から岡山での孤児院設立、茶臼原への移転といった孤児救済の道程が詳しく語られ、その活動を支えた人々についても触れられました。

講演の最後には、石井十次が残した「為せよ、屈するなかれ。時重なればその事必ず成らん」という言葉が紹介され、孤児救済の志を貫き通した彼の生涯から多くの学びを得たことが語られました。

パネルディスカッション ふるさとの先人・歴史文化を活かす ～誰も取り残さない未来、持続可能な地域づくりのために～

パネルディスカッションでは、河合さん、吉田さん、黒木町長が登壇し、歴史文化を基盤としたまちづくりを進めている高鍋町における「誰ひとり取り残さない持続可能な地域づくり」について、それぞれの視点から語りました。

ディスカッションの中で、「歴史の先人や地域の文化を、人づくり・まちづくりにどう生かすか」という問いに対し、河合さんは「人口減少時代において、観光はまちの死活問題。そのカギを握るのは、地域の人々が持つ地域への愛着です。高鍋に人を呼び込むためには、子どもだけでなく大人たちも郷土や偉人を愛し、誇りに思うことが重要」と語りました。続けて、吉田さんは「現場を見て孤児救済を志した十次からわかるように、志は現場で培われるもの。そして感性は家庭や地域で育まれる。一人ひとりの学びへの意欲でまちの雰囲気は変わる」と述べ、地域での歴史文化の役割とそれに対する地域住民のあり方を示されました。



シンポジウムの
模様は町公式
Youtube チャンネルで



リニューアル オープン



Takanabe Town NiNOMARU Museum of History and Education



▲高鍋町二ノ丸文教歴史館のロゴ。赤は国を、黒は人を表しており、国と人とを大切に
する名君や先賢がいたという高鍋の哲学を、赤と黒の2色で表現しています。

高鍋町の文化財や歴史的資料を収蔵・展示する高鍋町歴史総合資料館が、愛称を『二ノ丸文教歴史館』
として、令和6年12月21日にリニューアルオープンしました。

リニューアルにあたっては、地域活性化やブランドデザインにおける豊富な実績を持ち、高鍋町地域力
創造アドバイザーでもある株式会社トモダチの梶友宏さんが企画・デザインを担当。“人づくり、国づくり”
をテーマに、先賢が築いた知恵や文化を物語から学べる空間が創り出されました。

藩の象徴でもあった高鍋城・二の丸の跡地に位置し、城下町としての歴史や人づくりの志を、未来の地
域づくりに繋げる拠点として生まれ変わった二ノ丸文教歴史館へ、ぜひお越しください。

1階 高鍋の歴史を資料から知る



▲参勤交代に使われていた駕籠が正面に配置。
高鍋が城下町であったことを象徴しています。



▲原始・古代から高鍋藩政時代、そして幕末・明治を
経て近代までの高鍋を歴史資料から学べる構成に。

2階 高鍋の歴史を物語で学ぶ



▲リニューアル前に寄贈された民俗資料が並べられ
ていた2階展示室は、絵巻物のように高鍋藩草創
期から近代までの人づくりの歴史を物語で学べる
空間になりました。



▲高鍋藩の名君・秋月種茂公の政策を、現代のSDGs
(持続可能な開発目標)で表現。歴史から未来をつく
るヒントを得ることができます。

まちの未来をつくる

第7次高鍋町総合計画・第3期高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定を進めています

総合計画は、町の大きな方向性を位置づける、いわば「まちづくりの設計図」となるものです。そして、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5か年ごとの地域創生の目標を立て、その目標に向けて取り組むものです。

現行の第6次高鍋町総合計画が令和7年度、第3期高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略が令和6年度をもって計画期間が終了するにあわせ、町では町民の皆さんのご意見をいただきながら、新しい総合計画と総合戦略の策定を進めています。



高鍋町の「こうだったらいいな」を考えるワークショップ

総合計画と総合戦略の策定にあたり、町では、町の現状や課題を把握するためのアンケート調査を実施しているほか、町の将来をつくる新しい提案を取り入れるために、町職員と町民の皆さんを対象としたワークショップを開催しました。

ワークショップでは、まちづくりゲーム「マチュア・ソサエティ」を通じて、暮らしや仕事、防災、まちづくりについて、普段の生活で感じていることを基に、参加者同士で施策を提案しました。これからの高鍋町に必要な施策は何か、町で暮らす・働く人として、様々な視点から話し合っていました。

対象	実施日	参加者	内容
役場職員向け ワークショップ	11月15日 11月18日 12月18日	職員 20人 (若手職員中心)	まちづくりゲーム（マチュア・ソサエティ） プレゼンテーション
町民向け ワークショップ	11月21日 12月17日	町民 12人	まちづくりゲーム（マチュア・ソサエティ） ワールドカフェ



(左) それぞれのワークショップの様子。役場職員向けのワークショップでは、最終回で町長らへ向けて施策のプレゼンテーションを行いました。

(右) マチュア・ソサエティで提案された町で取り組みたい施策の一部。※紹介している提案は無作為に抜粋したものです。



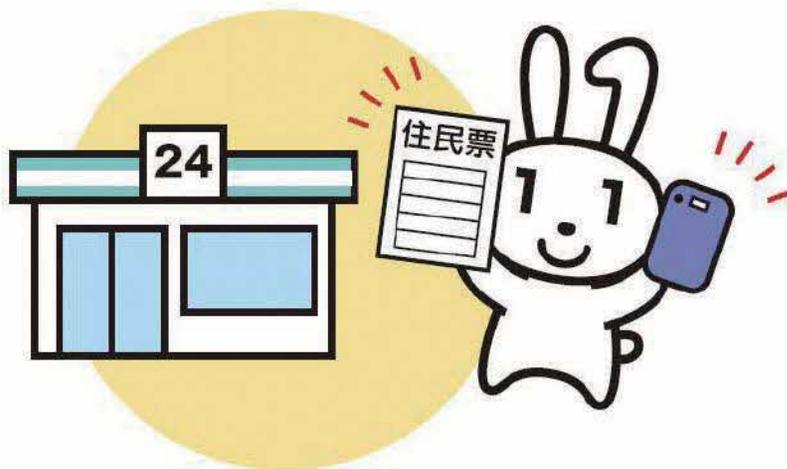
2月1日から証明書がコンビニエンスストア などで取得できます

いつでも

早朝・夜間
土日祝日も

どこでも

全国の
コンビニで



利用に必要なもの



マイナンバー
カード

- ※利用者証明用電子証明書が登録されたもの。
- ※4桁の暗証番号を入力する必要があります。

利用可能時間

午前6時半～午後11時

- ※戸籍（全部・個人）事項証明書、戸籍附票の写しについては、平日午前9時～午後5時。
- ※年末年始・システムメンテナンス日はご利用できません。

取得できる証明書

- ・住民票の写し（謄本・抄本）
- ・印鑑登録証明書
- ・戸籍（全部・個人）事項証明
- ・戸籍の附票の写し
- ・所得証明書
- ・課税証明書
- ・所得課税証明書

- ※住民票の除票や改製原戸籍・除籍は取れません。
- ※本籍地が高鍋町で、住民登録が高鍋町以外にある方が戸籍証明及び戸籍の附票の写しを取得する場合は、事前に「利用登録申請」が必要です。
- ※マイナンバー、住民票コードは記載されません。
- ※取得できる証明書は、本人・同世帯・同戸籍の方などです。
- ※各種税証明は、現年度分のみとなります。

お問い合わせ

◆ 町民生活課 ☎26-2006

住民票・印鑑登録証明書・戸籍・戸籍の附票・マイナンバーカードの取得

◆ 税務課 ☎26-2011

所得証明書・課税証明書・所得課税証明書

コンビニ交付サービス
の詳細はこちらから▼



県内初！子どもたちのチカラでまちを元気に！

キッズ健幸アンバサダー

けんこう

運動に親しむ
子どもたちの育成



運動の大切さを伝える
子どもたちの育成



子どもたちが起点！
元気なまちづくり

12月3日、高鍋東・西小学校の4年生135人が、オリンピック銀メダリストの朝原宣治さん、パラリンピック3大会連続出場の三阪洋行さんから、日頃からの運動の大切さや障がいを超えたスポーツの楽しさ、すばらしさを学びました。

子どもたちはこの体験をもとに、運動の重要性を広める伝道師であるキッズ健幸アンバサダーとして、「運動の目標を立てて実践する」「身近な人に運動の大切さを伝える」活動に取り組んでいきます。



高齢になって体が弱り、誰かの支援がないと生活が困難になる期間は、男性が平均8年、女性が平均12年！運動習慣で、この期間を短くできます。



▼スポーツ用の車いすに乗り、三阪さんとの鬼ごっこ体験、かけっこが早くなるコツを教してもらって朝原さんと競争するなど、体を動かす楽しさを改めて感じました。



講師陣



朝原 宣治 さん

陸上競技

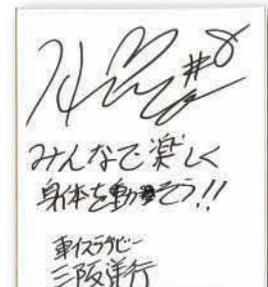
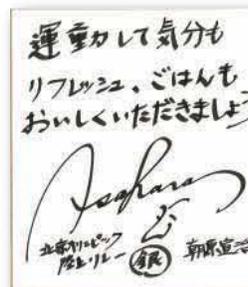
北京五輪 4×100m
リレー銀メダリスト



三阪 洋行 さん

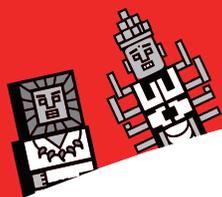
車いすラグビー

パラリンピック3大会代表
JPC・APC アスリート委員長

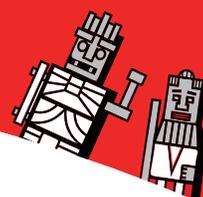


この事業は、公益財団法人ライフスポーツ財団の子ども活動支援金を受けて実施しました。ライフスポーツ財団のホームページは右QRコードから▶





高鍋町 地域おこし協力隊



12月に着任したお二人に活動内容や高鍋町の印象を聞いてみました！

西村 真人さん 神奈川県出身



Q1. 隊員としての活動内容は？

木工にまつわる仕事を20年以上、うち、お店をやったり、木工講師をしたり、ものづくりを通じた活動は14年。その技術や経験を活かした町おこしをしています。また、ひとり暮らしの目線から「ひとり暮らしの移住」についても情報発信していければと思います。

Q2. 高鍋町に住んで1か月！ご感想は？

日中の陽射しがとても暖かくて気持ちいい！ただ、夜はちゃんと寒い。そして海が近いのが嬉しいです。海辺の駐車場には県外ナンバーのサーファーさんもチラホラ、キャンプ場にも冬キャンプされている方が。僕も落ち着いたらソロキャン（徒歩10分）したいです！

Q3. 町民の皆さんへ一言どうぞ！

初めまして『ぶち木工』の西村です。こちらに来る前に人から聞いていたとおり、「宮崎の人は優しい」です。ただ、町の人からよく言われるのが「この町、何もないでしょ」。よそから来た僕は、その「何か」をたくさん見つけちゃっています！県外の人へ発信していくのはお任せ下さい！

大橋 力さん 福島県出身



Q1. 隊員としての活動内容は？

空き家バンク等を推進して、移住・定住者を増やすなど、空き家を利活用することによって地域の活性化を図る業務を担当します。

Q2. 高鍋町に住んで1か月！ご感想は？

移住前の神奈川県の住宅街とは異なり、今住んでいるところからは大きな木や小高い山が一望でき、とても気に入っています。また、街中が平坦で幹線道路に歩道が整備されているので、自転車やランニングを楽しんでいます。食べ物では高鍋農業高校さんの農作物のおいしさにファンになりました！

Q3. 町民の方へ一言どうぞ！

使わなくなった空き家を、移住を希望されている方々へとバトンを受け渡すお手伝いをします。皆さんとアイデアを出しながら、地域の活性化に向けて活動をしていきたいと思いません。どうぞよろしく願いいたします。

地域おこし協力隊専用サイトが完成！

高鍋町の地域おこし協力隊員の紹介や募集情報に関する情報発信を中心に更新していきます。隊員ブログでは、今回着任したふたりの詳しい自己紹介も掲載。ぜひチェックしてください！



HIGH SCHOOL COMMUNICATION

高鍋の高校生（高鍋高校 & 高鍋農業高校）のさまざまな活動を紹介します

高鍋高校



全国大会で熱戦を繰り広げる

高鍋高校ラグビー部が、第104回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場しました。1回戦では、札幌山の手高校（南北海道代表）に対し、前半にトライを許すも、見事な追い上げを見せて勝利しました。続く2回戦では、大分東明高校（大分県代表）と対戦。試合は引き分けに終わり、抽選で惜しくも3回戦進出を逃しましたが、全九州高校ラグビー新人大会の決勝で敗れた相手に、互角の勝負を繰り広げました。

また、同校ホッケー部も第56回全国高等学校選抜ホッケー大会に出場。全国の強豪が集う中、全力を尽くし、堂々たるプレーを披露しました。

高鍋農業高校



農業クラブ全国大会優秀賞

岩手県で開催された第75回日本学校農業クラブ全国大会で、高鍋農業高校の生徒が農業鑑定競技会で優秀賞を受賞しました。受賞したのは、野菜部門で岩本継夢さん、黒木優理さん、畜産部門で足立英加さんの3人です。

日本学校農業クラブ全国大会は「農業高校生の甲子園」とも呼ばれ、全国の農業高校の代表がその実力を競い合う場です。その中でも、農業鑑定競技会は農業に関する知識を分野ごとに競う部門で、入賞した3人は「日頃の授業に加え、個別に学習に励んだ成果を発揮できた」と笑顔を見せてくれました。

県営発電所周辺地域振興事業で整備 されました

県営発電所周辺地域振興事業は、省エネルギー機器の導入や地域の維持に関することなど、地域の振興に資するとともに、電気事業に対する理解を促進するため、宮崎県企業局が行っています。

本町では、令和6年度にこの事業を活用し、災害時に避難所で使用する災害用トイレ10台と、あわせて使用する災害用トイレ袋1万枚、避難ベッド10台を導入しました。



高齢者クラブ会員の作品が特別賞を 受賞しました

12月19日から21日の3日間、宮崎県立美術館において、第58回さんさんクラブ宮崎作品展が開催され、町の高齢者クラブ連合会会員も多数出展し、3人が入賞しました。

(右上) 宮本 泰次さん
宮崎県社会福祉協議会会長賞
工芸「守り神シーサー」

(下) 小泉 紀代子さん
宮崎県農業協同組合中央会会長賞
手芸「パッチワークのベッドカバー」

(右下) 児玉 千加子さん
努力賞 手芸「緋のコートドレス」



甘くておいしい 有機栽培のさつまいも

10月から11月にかけて、高鍋町環境保全型農業推進協議会と町内の農家が協力して有機栽培で育てたさつまいもが、町内の小学校や保育施設で子どもたちに提供されました。

町立わかば保育園では、ふかして輪切りにしたさつまいもを園児たちがホットプレートでバター焼きにして、おやつとして楽しみました。自分で焼いたさつまいもを食べた園児たちは、「甘い!」「おいしい!」と笑顔を浮かべながら頬張っていました。



地域の大人から多様な生き方を学ぶ

11月7日、高鍋西中学校で対話型キャリア教育プログラム「ひなた場」が開催されました。このプログラムは、中学生が講師として協力する地域の大人とお互いの人生を語り合いながら、自分の将来について考えることを目的としています。

講師たちは、グラフや紙芝居を使いながらこれまでの人生経験を説明。生徒たちは時折質問や相談を交えながら、熱心に耳を傾けていました。

この取り組みは、12月には高鍋東中学校でも実施されました。



私の灯籠はどこかな 灯籠点灯式開催

11月30日、舞鶴公園で灯籠点灯式が行われました。このイベントは、10月に開催中止となった「高鍋城灯籠まつり」の代替イベントとして企画されたものです。公園内には、竹灯籠や町内の子どもたちが飾りつけた紙灯籠が並べられ、幻想的な光景が広がりました。

来場者は、自分が描いた灯籠を探したり、階段に設置された小さな竹灯籠で作られた“天の川”を前に記念撮影をしたりと、晩秋の夜に灯る美しい灯りを楽しんでいました。



高鍋町で農泊を 高鍋高校生がプレゼン

12月4日、高鍋高校生活文化科の生徒4人が、町長や高鍋町農泊推進アドバイザーの石川史子さんらを前に、町での農泊プランを提案しました。

プランは、農家や農業総合研修センターでの農業体験の他、町の魅力を盛り込んだ内容でした。発表を聞いた石川さんからは、「町独自の強みとして、餃子を取り入れたら面白い」といったアドバイスがありました。



冬の図書館の楽しみ クリスマスコンサート

12月7日、柿原政一郎記念高鍋図書館でクリスマスコンサートが開催されました。

図書館の庭園を会場としたこのコンサートには、合唱やフルート、ピアノ、ギター、ヴァイオリンの演奏、さらに絵本の読み聞かせやマジックショー、イルミネーション点灯式など、多彩なプログラムが行われ、訪れた人々は、美しい音楽に耳を傾けながら、クリスマスの雰囲気を感じていました。



子育て応援の心 図書カード寄贈

12月13日、高鍋商工会議所女性会が石井記念明倫保育園に図書カードを寄贈しました。同会は創立50周年記念事業の一環として、町内の保育施設に図書カードを贈り、子育てを応援する取り組みを続けています。今年も、石井記念明倫保育園となでしこ保育園が対象となりました。

寄贈式で、同会会長の米田礼子さんは「これでたくさん本を読んでください」と、図書カードを受け取った園児たちに温かく語りかけました。



温泉を楽しんで 小学生へ招待券贈呈

12月20日、高鍋温泉めいりんの湯が、町内の小学校2校の全校児童に温泉無料招待券を贈呈しました。これは、町内の小学生に地域資源を活用した商業施設があることを知ってもらおうと、めいりんの湯が企画したものです。

めいりんの湯は、平成3年にオープンした温泉施設で、2020年には完全掛け流し式に改装されました。また、産直コーナーやレストランも併設され、地域に密着した交流の場として広く親しまれています。



地元のお米を食べよう 竹飯ごうで炊飯体験

12月22日、蚊口海浜公園で高鍋町みどりの少年団が竹飯ごうを使った炊飯体験を行いました。講師として、高鍋町地域力創造アドバイザーである LOCAL BAMBOO 株式会社の江原太郎さんを迎え、米は四季彩のむらで子どもたちが収穫したものを使用しました。

子どもたちは、竹を割って飯ごうと箸を作るところから挑戦し、竹飯ごうで炊いたご飯を味わいました。





赤ちゃん写真コーナー！

まちの宝、高鍋の赤ちゃんあつまれ！今回は 11月・12月の9・10か月健診に来てくれたお子さんをご紹介します！

いのうえ えな ちゃん



しのはら めい ちゃん



なわた けいしろう ちゃん



はしがち かなた ちゃん



まつお らお ちゃん



もろいし きさと ちゃん



わたなべ かなみ ちゃん



うめき あすな ちゃん



かい まひな ちゃん



かねだ りあ ちゃん



すずき みゆ ちゃん



はるぐち つぐみ ちゃん



よこやま くの ちゃん



100歳おめでとうございます！

これからどうぞお元気で毎日をお過ごしくださいね♪



松永甲（マツナガ キノエ）さん

<令和6年11月号の訂正について>

3ページの記事について、高鍋農業高校野球部の出場種目を誤って掲載していました。お詫びして以下のとおり訂正させていただきます。

正：高校野球（軟式） 誤：高校野球（硬式）

2025
1
No.452

廣報川
たかなべ
KOHU TAKANABE

高鍋町公式 SNS 一覧

高鍋町

検索



↑高鍋町
ホームページ

編集・発行 / 宮崎県高鍋町 (デザイン・構成 / ストロールデザイン)
〒884-8655 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江 8437

地域政策課 ☎ 26-2018

*「広報たかなべ」は2カ月に1回、奇数月に発行しています。

町ホームページでもご覧になれます。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。1月号の表紙は毎年恒例！二十歳のつどいに参加した皆さんの晴れ着姿です。会場のたかしんホールでは、久しぶりに顔を合わせた同級生との再会を喜ぶ声があちらこちらから聞こえ、楽しく賑やかな雰囲気になっていました。大学進学や就職を機に町の外へ出た人も、こうした機会に地元高鍋町へ帰ってきたり、町のことを思い出したりしてもらえたら嬉しいですね。

20歳を迎えた皆さんのこれからの人生が、幸多き日々でありますよう、お祈りいたします。